

令和5年度 学校評価報告書

島根県立松江工業高等学校 全日制課程

教育方針	教育目標 (1)学力を育む (2)社会力を育む (3)人間力を育む (4)学校魅力化の推進	重点目標 (学校(各部))	担当 分掌	学校評価質問項目	4段階評価			自己評価		学校関係者評価		改善策							
					A	B	C	D	評価(昨年)	結果概評	コメント		評価(昨年)						
					アンケート調査結果(数値1~4で回答)の平均値による区分 ※0:わからないは除く (4:よく出来ている 3:大体出来ている 2:あまり出来ていない 1:出来ていない 0:わからない)			結果概評		コメント									
次世代を担う社会に有為な形成者として、人権を尊重し人類の平和と発展に寄与できるすぐれた資質を養う。	(1)	学力の向上(教務)	教務	補習授業や指導方法の改善を図る。	B 2.7	A 3.2	B 3.0	B (B)	・資格・試験試験の指導については、各学科及び教科の熱心な取り組みと指導のもと、成果を挙げることができた。 授業と評価の一体化を図るために、授業互見や研修会を行い授業改善に取り組んでいる。生徒の主体性を引き出す工夫や、探究活動をどのように授業に取り込むかなど、さらなる改善が必要である。	・進学率が増えてきて、今後もその傾向が続くと思うが、これまでと同様に資格取得の取組はつづけてもらいたい。 ・資格、検定の取得は、各学科、各学年で積極的な取り組みが感じられる。 ・自分の教科以外の授業を見学できる期間があり、とても良い。主体性を引き出す工夫等、授業改善に取り組んでおられる。	A (A)	・資格試験については現状の通り各科の対応をお願いする。 ・主体的に学習に取り組む姿勢や、思考・判断・表現の評価方法について、他の教科と共有し、その育成に活かす。							
				資格・検定情報を提供し、取得のための指導を積極的に行う。	A 3.3	A 3.3	A 3.2												
		進路実現力の向上(進路)	進路	「進路だより」等による地元企業の情報提供の充実を図る。	B 3.0	A 3.3	A 3.2	A (A)	・進路の手引き(本版・保護者用縮刷版)、進路だより(昨年度以上の発行号)、Handy進路指導室(サイトによる本校求人検索)の導入などにより、企業情報の提供について充実するよう進めた。3年進路ガイダンス(6月)、2年キャリアガイダンス(10月)を開催し、学校と地元企業との連携をはかった。1・2年進路セミナー、卒業生によるパネルディスカッション・座談会、キャリアパスポートによる自己探究など、多くの進路学習を実施した。進路希望調査を学期毎に実施し、生徒の進路意識を高めながら、家庭での対話を促している。生徒との個別面談、保護者を交えた三者面談について適宜行い、保護者説明会とも合わせ、それぞれの疑問、不安等にきめ細やかに対応している。今後は、生徒がより主体的に進路選択ができるよう支援体制の改善が必要と考えている。	・進学先の情報を充実させてもらいたい。 ・中学生と保護者に対して、工業高校卒業後の将来(特に就職)をわかりやすく説明できれば良いと思う。 ・ガイダンスや研修会が多く開催されており、成果があがっている。生徒や保護者との面談の機会をさらに増やして欲しい。 ・進路選択に向けての多くの学習がなされており良い。保護者用の進路の手引きも良いと思う。 ・進路については、就職に対しては概ね充実していると思われるが、進学に対しては進路相談室内の情報量の圧倒的な少なさを感じているので、来年度以降の改善を期待する。	A (B)	・多様な進路および入試制度に対応できるよう、様々な進学説明会に参加し、進路情報を充実させる。また、生徒一人一人の進路実現に向け、担任、科と連絡を密にとり、適宜情報を提供していきたい。 ・中学生や保護者対象の説明会や一日体験入学の際に、具体的な進路先や卒業生の言葉など発信するように努めたい。 ・進路実現力向上のため、今後も様々な進路行事を行ってきたい。また、生徒や保護者との面談等も適宜行っていきたい。 ・様々な進路学習を通し、課題発見力や情報収集力、整理・分析力、表現力の育成に努めたい。また、保護者にも進路の手引きや進路だよりを用いて、進路情報の提供を積極的に行っていきたい。 ・進路資料室の進学資料の充実や進路雑誌の補充などに努めるとともに、進路資料室の生徒の利用促進にも力を入れていきたい。							
	個別面談・三者面談の充実を図る。			B 2.8	A 3.3	B 3.1													
	(3)	礼節・規律・生活習慣の確立(生徒)	生徒	体験活動の推進	生徒	ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る。	B 2.7	B 3.1	B 3.1	B (B)	・地域交流活動への参加については、文化祭、課題研究、部活動等を通じて公民館等と連携を図っていただいた。これに対しての教員評価が生徒・保護者評価に対して低かった。今後は案内はもちろんだが、実施後の活動報告が皆様に伝わる手立てを検討したい。	・ボランティアは積極的にされていると感じる。 ・一般の生徒の活動への参加が増える工夫を考える。 ・工業生ならではの地域社会へのボランティア、公民館活動へのボランティアが評価できる。 ・ボランティア活動を紹介する機会を増やすことで、地域にも認知され学校イメージの向上につながると思われる。	A (B)	・ボランティア活動の周知・参加・報告と流れを作りより活発に取り組めるようにしていきたい。					
				部活動の推進(生徒)	生徒	部活動を奨励し、健全な心身の育成を図る。	A 3.2	A 3.2	A 3.2						A (A)	・日常的な指導の継続により、頭髪・服装・挨拶について一定の成果に繋がっている。引き続き指導を続けていく。ただ一部に不適切と思われる生徒がいるのも事実。事情がある生徒については異装届等出させて教員間で情報共有する必要がある。違反と知りながらまたは「自分だけじゃない」の言い分で改善しない生徒については継続して指導していくしかない。ルールを守ることと同様に、自分の誤りを正せる生徒を育てたい。	・頭髪について生徒会を中心にルールを決められたことはよいことだと思うが、一方で社会に出たら、組織それぞれのルールもあり、時にはそれに従わざるを得ないこともあることを教えてやってほしい。 ・挨拶はできているが、身だしなみが整っていないので指導が必要である。 ・校内で出会う生徒さんは皆感じの良い服装です。挨拶も良い。 ・最低限のルールは必要だが、厳格にすべきではないのではないか。	A (A)	・ルールは個人の自由を制限する一面はあるが、何もかも自由だと、誰か一人の「楽しい」が、他の大勢の頑張りや踏みにじってしまうことがある。実際に「授業」というのは、一人の自由な振る舞いが、多くの人の「真面目に聞く努力」を陳腐化させることがよくある。でもマジョリティがサイレントであるのは教室でも同じ。真面目な人は、一人のわがままをグッと我慢して飲み込む。声に出したりはしない。だから、頑張っている人ほど報われるような理想の場所を作るためにルールを設定している。常に自分を矢印向け、改善していける生徒を育てたいと思っている。今後も地道に支援を続けていく。
				人権教育、インクルーシブ教育の推進	人権	校内研修等で得た情報や知識を常に心がけ、人権に配慮した発言・指導を行う。	B 2.9	A 3.2	B 3.1										
	特別支援教育の充実(保健)	保健	生徒に関する面談や相談を適切に行っている。	B 3.1	A 3.2	B 3.1	B (B)	・教職員研修は計画通り実施することができた。特に、性的少数者について研修ができたことは評価したい。生徒対象の人権教育も、担任を中心にしてHRや講演会を実施できた。	・人権、保健を通じて教職員の研修を充実させてほしい。特に最近では社会に出てすぐに悩む人が増えている。メンタルヘルスとして、自己防衛と組織として守ってあげられる人材が必要と考える。 ・SNSの悪用が発生しないよう対策を講じて欲しい。 ・人権教育は講演会やHRで行われており評価。 ・1人1人の人格を尊重した指導を期待する。	B (A)	・今後も教職員研修を充実させていきたい。定期的な研修や講演会のほかに、職員会議後の時間を使ったミニ研修も増やしたい。 ・生徒対象の人権教育も、マンネリにならないよう教材を精選していきたい。 ・保護者対象にプリント等を発行して人権教育の取り組みについて啓発を進めていきたい。								
	積極的な情報発信(総務)	総務	HP・広報活動が十分に行われている。 HPや緊急メールにより緊急情報が適切に連絡されている。	B 3.0	A 3.3	B 3.3						B (B)	・HPについては、各科・各部活動等において生徒たちの日々の活動や大会結果等を提供してもらい、更新することで積極的に情報発信をすることができた。しかし、学校行事等に関わる情報提供は不十分なところもあったので、各分掌・科との連携を深めてHPの内容を充実させたい。緊急メールによる臨時休校や学級閉鎖、時程変更等の連絡は適切に行われていたが、さらに改善点を明確にして問題解決に努めたい。	・ホームページは充実していると思う。保護者向けの発信について紙以外の方法も検討してはどうか。 ・HPの充実、地域社会への学校情報誌の提供を図って欲しい。 ・積極的に日々の活動や大会結果等を更新し、情報発信されている。図書館報はとても良いです。これからも楽しみにしています。 ・新聞などの多メディアも活用し、工業高校の名前を大いに発信して欲しい。	A (A)	・学校行事や部活動報告、日々の学校生活や地域の人々との交流等、生徒が学校内外で活躍している姿をホームページなどを通して様々な方面に積極的に発信し、松江工業高校の魅力を高めるような情報提供を行ってきたい。			
	ICT機器の活用推進	教務	積極的にICT機器を使った授業等に取り組んでいる。	B 2.8	B 3.1	A 3.2											B (B)	・欠席者に対する課題配信など、効果的にタブレット端末を活用するケースもあり、活用の幅は広がっている。しかし、まだまだ、活用状況に教員の個人差があり、ICT機器の利用について授業改善と絡めながら、効果的な使用方法などをさらに研修する必要がある。	・タブレットのメリットを最大限活用できるように工夫をしてもらいたい。やはり教職員と生徒のコミュニケーションを第一に考えていただきたい。 ・タブレットの効果的な利用とマイナス面の排除を構築した方がよい。 ・タブレット端末の活用、大変と思います。生徒に寄り添って授業されていると思います。 ・授業改善の取り組みは大いに評価すべきところ。
授業改善	教務	わかる授業など授業改善に取り組んでいる	B 2.7	B 3.1	B 3.0														